

(一財) 日本ヘルスケア協会から

発行：日本ヘルスケア協会 事務局

今回は4月13日の前回定時記者会見以降の動きについてご報告いたします。

1. 野菜・果物等の店頭POP表示Pjt. は順調に進捗し、最速の店舗では連休明けから表示実験が始まりました

- 実証実験は、おおむね「参加の申込」⇒「企業・店舗関係者への事前説明」⇒「同意勉強会の開催」⇒「表示勉強会の開催」⇒「店舗での表示実験」の手順で進められています。
- 愛知県にある大型ナチュラルフードストアでは、3月上旬から一連の手続きを進め、地元保健所への連絡を経て、5月10日、名古屋市内の店舗で店頭のPOP表示実験を始めました。以降、同社チェーンの4店舗で順次実験が行われます。
- 当月にはこの他、北海道の農産物直売所、江東区東陽町の生鮮市場（本社・茨城県）等、異なった業態における店頭実験が行われます。
- 来月以降には、既に勉強会を終えた福島、愛知、広島、埼玉、北海道の食品スーパー、徳島の農協スーパー等での店頭実験が予定されています。
- 実験は、それぞれの時期に合わせた野菜・果物等を選択して行われ、店頭では来店客の皆様のご協力を得て、表示に関する消費者意識・意向アンケート調査を合わせて行います。
- これらを含めて8月末日までにはすべての実証実験を終え、3か月以内に最終報告書を取りまとめます。
- 生活者・消費者に向けた野菜摂取の啓発ムック本は、近々まず関係者向けの第1版が出版されます。
- 野菜・果物のやさしいイメージキャラクター制作は、5月19日開催の次回部会で著名デザイナー提示案の検討が行われます。
- 同部会では、2025年大阪・関西万博への取り組みも企てており、3月末に万博協会に提出した「共創チャレンジ」登録書内容を含めて、今後の取り組みを検討していきます。

2. 日本ヘルスケア協会は一般社団法人次世代FVC研究所と連携して次世代の農業ビジネス、周辺事業を含めた新しい産業創造のあり方を探ります

（一社）次世代FVC研究所はフードバリューチェーンに立脚した次世代の農業経営や農業ビジネスの実現、周辺事業を含めた産業の創造を通じて広く社会に貢献することを目的に、2020年6月に設立された一般社団法人であり、農産物流通に携わる多くのステークホルダーを構成員として活動されています。JAH「野菜で健康推進部会」と方向性の一部をともにし、また現在、新部会の立ち上げを準備中の「医農科学部会」とも重なる目的を持つことから、この度、同研究所と連携した事業に取り組むこととし、手始めに6月5日（土）午前、共催によるWEBセミナー（聴講無料）を開催することになりました。同セミナーには、丹羽真清部会長が基調講演を行い、続いて「パネルトーク・新たなフードバリューチェーンの構築に向けて」にも参加される予定です。（聴講申込は〇〇〇）

3. 部会・研究会の動き

- (1) かねて部会設立の準備を行ってきた「健康まちづくり部会」は、4月28日、日本ヘルスケア産業協議会・池野隆光会長からの承認通知を得て、JAH第22番目の部会として活動を開始しました。5月24日（月）午後、第1回部会を開催します。
- (2) 生き生きライフ（フレイル対策）部会は、4月20・21日に有楽町・東京国際フォーラムで開催された「健食原料・OEM展」のフレイルストリートに構成員企業からのコンテンツを展示しました。
- (3) 健康経営推進部会は、7月初旬に開催予定の次回第25回部会に、NPO法人日本ヘルスツーリズム振興機構の高橋伸佳事務局長を迎え、「ヘルスツーリズムとワーケーション」のテーマで講演していただく予定です。